

みなさんは『ウサギとカメ』のお話を知っていますね。

ある時、ウサギに歩みの鈍さをバカにされたカメは、山のふもとまでかけっこの勝負を挑みました。かけっこを始めると予想通りウサギはどんどん先へ行き、とうとうカメが見えなくなってしまいました。ウサギは少しカメを待とうと余裕綽々と居眠りを始めました。その間にカメは着実に進み、ウサギが目を覚ましたとき見たものは、山のふもとのゴールで大喜びをするカメの姿、そう、誰もが勝つと信じていたウサギが負けて、カメが勝つというお話です。

ところで、『ウサギとカメ』のお話で、「どうしてウサギは負けたのでしょうか」とみなさんに聞くと、だれもが「途中でウサギが居眠りをしてしまったから…」と答えますが、実はこのお話には別の意味が隠されているのです。

もともと、ウサギとカメでは、生まれたときからくらべものにならないほど、走る速さは違っているのはわかっています。その二匹にどうして速さくらべをさせたお話にしたのでしょうか。そこには、みなさんにぜひとも知ってほしい大切なことが含まれているのです。

カメは自分が遅いということはちゃんと知っていました。だから、自分の目標をウサギに勝つことではなく、山のふもとまで行き着くことにしました。そして、カメは、たとえ遅くても、目標に向かって最後までがんばれる自信があったのです。

一方、ウサギはカメに勝つことだけに目標をおきました。ウサギは自分の足の速さを自慢するくらいですから、楽勝だと思っていました。そして、自慢する気持ちがカメをバカにする気持ちとなり、少く休んでも大丈夫という油断となつて、「居眠り」をしてしまったのです。

カメは自分の能力とウサギの能力を決してくらべませんでした。もし、「速さ」ということでウサギとくらべたら、「かなうはずがない」と競争はしなかったでしょう。しかしカメは、自分はゆっくりでも最後までがんばれるというよさを信じて競争に臨んだのです。

みなさんも、ひとりひとり得意なことや良さは違います。勉強のことや運動のことで、友だちとくらべたりしないで、自分のよさを十分生かして努力してください。初めはできないと思っても、目標にたどりつくことができるはずです。